

第7号
平成18年1月10日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア
連絡協議会
☎ 685-7170
鳴門市市民活動
支援センター
☎ 684-0655



「第4回鳴門のまつり」と「第3回子どものまちフェスティバル」の開催風景

昨年10月23日、鳴門ウチノ海総合公園において「第4回鳴門のまつり」が開催されました。前夜来の強風で少々肌寒かったが、幸いにも開催時間中は好天気恵まれて大勢の参加者でにぎわいました。また同時に隣接地では「第3回子どものまちフェスティバル」が行われ、いろいろな体験コーナーで遊ぶ子ども達の生き生きとした姿が印象的でした。

市民活動と共に

鳴門市市民福祉部長
岩瀬 肇



新年明けましておめでとうございます。

鳴門市の市民活動は、NPO法人やボランティア団体、コミュニティ団体、地域づくり団体、社会福祉関係組織、社会教育団体、商工団体など、市民の皆様方の幅広くきめ細かい活動に支えられてきております。

市民活動のより一層の促進を目指して、鳴門市では平成17年4月1日から「鳴門市社会貢献活動の促進に関する条例」を施行し、拠点として「鳴門市市民活動支援センター」を開設しました。

「条例」と「市民活動支援センター」が活用されるようになって、NPO法人の設立や運用相談が飛躍的に増加しました。また各団体の活動もこれまで以上に活気あるものになってきている手ごたえを感じ取っています。

「市民活動情報紙なると」には、毎回、各団体の生き生きとした活動の様子が紹介されており、地道な活動の積み重ねこそが市民活動の発展へつながるものと確信いたしております。

今後ともこのような動きを大切に育て、市民の皆様との協働による、夢と希望と活力に満ちたまちづくりの実現に向けて力を尽くしたいと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

第4回鳴門市市民活動 交流研修会

平成17年度の鳴門市市民活動交流研修会を下記のとおり開催いたします。今回はNPO法人「JCIテレワーカーズ・ネットワーク」のご協力により「福祉」をテーマとして実施いたします。多数ご参加ください。

日時 平成18年2月11日(土) 10:00~16:00

会場 鳴門市堀江公民館

参加費 500円(弁当代)

日程 午前 * 福祉関係団体の活動発表

* 障害者自立支援法および
指定管理者制度について

午後 * 市内社会貢献団体の連携について

* 「JCI」の発表および活動見学

* 支援センター報告 その他

申し込み 様式は別途ご案内いたします。

問い合わせ 市民活動支援センター(684-0655)

ヤングボランティアの集い

第1回 平成17年9月30日
第2回 平成17年12月7日

市役所共済会館において市民活動支援センター主催による「ヤングボランティアの集い」第1回、第2回が開催されました。この集いは鳴門市社会貢献活動の将来を担う若い人達の人材育成と活動団体間の交流促進を目的として企画されたものです。

コーディネーターとして三野町社会福祉協議会の岩城事務局長をお招きし、市内のNPO法人やボランティア団体で活動している十数名の若い人達が参加しました。参加者と同世代である岩城さんの司会により会は非常に盛り上がりました。



活発な意見が飛び交うヤングボランティアの集い

いろいろな建設的な意見や提案が出されましたが、その一方で団体や行政に対する不満や要望もありました。

こうした催しは当市において初めての試みであったためか、会の終了後も熱気が冷めやらず、語り尽くせない思いを遅くまで立ち話する姿が目立ちました。

活動する

ボランティア鳴門西

NPO法人 ボランティア鳴門西
佐野文絵

ボランティア鳴門西がNPO法人の認証を受けたのは1年半ほど前で比較的最近のことですが、その前身は10年くらい前からいろいろなボランティア活動を行っていました。NPO法人としての活動内容は、「花いっぱい運動」、「美しいまちづくり」、「ごみゼロ活動」、「海をきれいにする活動」、「高齢者の生活支援」および「青少年の健全育成」など、多岐にわたっています。

昨年から新しく追加した活動として、「国道と県道の清掃作業」があります。私達は2ヶ月に1回、年に6回の清掃を行っています。国道は少し短く200mですが、ボランティア鳴門西がこの区間の清掃の担当を示す赤い「表示板」を立ててもらっています。また最近になってやっと県道沿いにも、こちらは緑の「表示板」



道路の清掃活動をするボランティア鳴門西のみなさん

ができました。鳴門駅周辺にはあちこちのグループの赤い「表示板」が立っているので、少し注意してご覧ください。

今年になって新しくスタートさせた活動に「海のピオトープづくり」があります。高島・三ツ石地区の「みお川」で、昔は泳いだり魚や貝を採っていましたが、もう一度これらを取り戻したいというお年寄りの思いや、また美しい川を再現して子ども達にいつまでも残してあげたいという思いからスタートしています。

活動の初日は鳴門西小学校の6年生約30名が参加して川の中に入って掃除をし、石を動かしたり、アマモの植え付けを行いました。みんな目の色が変わり、早く水の中に入りたいとの思いが強く、一生懸命汗を流してくれました。この活動も子ども達の健全育成の一つですが、いままでも左義長、ひな祭り、阿波踊り、秋祭りなどを行って交流を深めています。



私と家内が学校帰りの時間帯に散歩していると、子ども達が元気よく「こんにちは」と声をかけてくれます。私が一人の時でも同じです。最近では全国あちこちで小学校低学年の児童、特に女の子が痛ましい被害に遭っていますが、鳴門西地区では子ども達も安心して私達に元気よく挨拶してくれるうれしい光景があります。これはひとえに従来からの子ども達の健全育成活動の賜物であり、いつまでもこれらの取り組みを続けていきたいと思っています。



映画の感動 を一緒に

「なるとDeシネマ」実行委員会
藤田 米子

鳴門には、かつて7つもの映画館があったそうです。今は一箇所もありません。

「100円の小遣いを貰って映画館に行くのがすごく楽しみだったなあ」「ばあちゃんの背中
で見た映画忘れられないね」。昔の思い出がよみがえり、あちこちでこんな声が聞こえてきました。

「鳴門映画週間も廃止されて本当に残念、さびしい鳴門市だね」。そんな声を聞き、私達の手で映画上映をしようよ、と立ち上がった「なるとDeシネマ」実行委員会です。

第1回は「ラストサムライ」。話題作とあって当日の入場者は1500名余り。このときに実施したアンケートでは、「ぜひ次もやってください」との声が多く、実行委員会は次への上映に意欲を燃やしました。

第2回目は「盲導犬クィール」。(子どもといっしょに映画を見よう)とのことで多くの子ども達も参加。当日は盲導犬も文化会館のロビーに呼んで、子ども達と触れ合う会を行い、福祉への理解を図ることができました。

第3回目は「北の零年」。みたかったけど見逃したという人や、もう一度みたいという人などでこれも大盛況でした。

第4回目は「Shall we Dance?」。リチャード・ギヤのオシャレな映画を楽しみました。みた人は「よかったわ～。日本の男性にもみせ

てあげたいな」「夫婦のあり方も考えさせられる。あなた達いいことしているね」とうれしいファンからの応援メッセージがありました。

これらを支えに次の上映会に向けて17人の実行委員は輝いています。鳴門市文化会館には、県内ホールでいちばんいい映写機があります。大きいスクリーンで安い値段で映画をみる楽しみができました。皆さんも年に2回ですが、映画の感動を一緒に味わいませんか？



「クィール」上映の後「盲導犬と触れ合う会」の皆さん

行事案内 「ふくろうの森」文学教室

ところ： 鳴門市立図書館2F 視聴覚室

参加費：100円（当日、受付にて集金）

申込み：問合せ：「ふくろうの森」事務局

TEL/FAX 685-0389

【紀行文の書き方】

日時：平成18年1月20日（金）

13:30~15:30

講師：谷口 将さん（「ふくろうの森」会員）

【ドイツ館物語】

日時：平成18年2月15日（水）

13:30~15:30

講師：林 啓介さん（ドイツ館友の会会長）

全国の自治体 NPO 施策で連携

一昨年十月、千葉県幕張で行われた「NPO活動推進自治体フォーラム千葉県大会」において、「NPO活動推進自治体ネットワーク」の構想が提案されました。その後、これに賛同する自治体が立ち上げに向けて検討を行ってききましたが、昨年の十一月に開催された「NPO活動推進自治体フォーラム横浜大会」において正式に発足する運びとなりました。

このネットワークは全国の自治体が、地域の課題に取り組み際のNPO、企業、地方自治体、国などのさまざまな主体による役割分担や協働のあり方、NPO施策のビジョンや戦略、その成果などについて共有・議論することにより、それぞれの施策や地域づくりに反映させることを目的にしています。また必要に応じて法改正など、国への政策提言なども行う予定だそうです。

ネットワークの会

員は全国の自治体によって構成され、昨年十一月の立ち上げ時には既に約二〇〇の自治体に参加を表明しています。



第5回

「とくしまNPOフォーラム」報告

市民活動支援センター 福田健一



分科会の結果を発表するスペシャル座談会

「第5回とくしまNPOフォーラム in 吉野川市」が12月10・11日の両日、山川メニティセンターで行われました。

初日は、新潟県のNPO法人「くびき野NPOサポートセンター」の大島誠理事長からサポートセンターの設立と運営に関する基調講演があり、市民活動の普及啓発は、関心のない人をいかに目覚めさせるかにかかっていると、メディアを活用したり、市民活動に企業を巻き込む例などを具体的に紹介されました。

その後の県内のNPO法人の理事長による座談会においては、これからの地域づくりは「一人ひとりが自分の持ち味を地域に生かすこと」「自分のまちは自分でつくる気概を持つとともに、継続することが大切」などの提言がありました。

二日目は「指定管理者制度」や「子育て支援」などをテーマとする6つの分科会や座談会があり、各会場とも真剣な議論が展開されました。殺伐とした最近の世の中にあって、社会貢献活動に熱意をもって取り組んでいる人がこんなにも沢山いることを知って、感動するとともに、とても爽やかな気分で会場を出ました。

自分らしい活動



NPO法人「ふくろうの森」
広報担当 野村幸子

「ふくろうの森」では、鳴門市立図書館を拠点に、8つのグループからなる図書館ボランティア活動と、官民協働の図書館業務支援等を行っています。中でも8つのボランティアグループ（おはなし会、子ども体験、児童室、IT、子ども読書、成人読書、環境、バリアフリー）は、各コーディネーターを中心にそれぞれの持ち味を生かした行事などの活動をしています。

それらの活動を広報という形で支えていけるのはとても幸せなことだと思っています。

毎月、各コーディネーターから出される行事予定をもとに、ニュースの発行や各報道機関へのPR、単発行事の申し込み、チラシの作成や配布などを行っています。広報内容の間違いや広報の遅れで沢山の方々にご迷惑をおかけする一方で、「チラシを見たよ」の一言に励まされることもあります。

いろいろな経験の中で広報の重要性を感じ、正直、自分には荷が重すぎると思いました。けれど活動を通じていろいろな人との出会いの中で、自分らしく何ができるかを考えればよいと気付きました。チラシの工夫やダンボール製の看板の設置、行事会場の雰囲気づくりなどを現在採り入れています。相変わらず失敗ばかりの日々ですが、沢山のの人に支えられて楽しく活動できることに感謝の気持ちでいっぱいです。

今後「ふくろうの森」の活動をどのように伝えていくかが大きな課題となります。そのためには「ふくろうの森」の内側からの視点だけではなく、外側からの視点を持つことが大切だと思っています。市民の声や、鳴門市の社会貢献団体との交流を通して学んだことを、広報に少しずつ生かしていけたらと思っています。



《助成金情報》

2005年度社会貢献活動「助成金制度」

(後期募集)

【助成元】 四国労働金庫

【金額】 1団体に対する助成金限度額は30万円以内、または助成対象費用の2分の1のいずれか少ない額

【募集期間】 2005年12月1日～2006年1月31日

(応募対象活動は2006年4月～9月末までに終了する活動)

【対象団体】 対象は四国4県内に主たる事務所を有するNPO法人、社会福祉法人、ボランティア団体、その他福祉の増進を図ることを目的とした団体で、一定の条件を満たすもの。

【問合せ先】 〒760-0011 香川県高松市浜ノ町72-3 四国労働金庫 総合企画部 TEL 087-811-8004